

学校教育目標	はつらつとして、伸びる子、強い子、優しい子の育成
育成を目指す資質・能力	自分の考えをもち、伝え合うことでさらに考えを深める力の育成

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 各学年の単元末テスト正答率60%以下は、1年生国0%算0%、2年生国0%算0%、3年生国5%算2%理2%、4年生国10%算10%理6%、5年生国0%算2%理2%、6年生国0%算2%理2%という結果であった。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 各学年の単元末テストの結果から、どの教科においても問題文の読み取りが正確にできておらず問題文に沿った回答ができていない。観点では思考・判断・表現に課題があり、記述での回答を苦手としている傾向にある。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) 1学期の振り返りから、授業中、自分の考えをノートに書くことができた児童93.8%、自分の考えをすすんで発表(友達に伝える)している児童81.2%、すすんで本を読んでいる児童95%であった。自分の考えをもつても、それを友達や学級全体に伝えないままの児童がいる。多くの児童が自分の考えをもつことができているのに対し、それを伝えたり発表したりする児童が減ることに課題がある。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ○教職員アンケート「自分の考えをもち、伝え合う場を設定し、考えを深める授業展開を1日1回以上行っている」80% 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○教職員アンケート「家庭学習の習慣化を図っている」90% ○教職員アンケート「学習規律を守らせて、授業に取り組んでいる」90%	

学力に関する達成指標
○自分の考えを広げたり深めたりする授業を1日1回以上する。 ○単元末テストの正答率の向上に向け、正答率60%以下の児童を10%以下にする。 ○すすんで本を読んでいる児童90%以上にする。(年間図書貸し出し冊数 低学年:100冊 中学年:70冊 高学年:56冊)

今後の具体的な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	〈授業改善のテーマ・重点〉 (テーマ) 確かな学力の定着・向上を図る学習指導の充実と低学力層の底上げ (重点) ①授業中の自己選択・自己決定の場の確保 ②考え・討論する授業の構築	
	〈取組内容〉 1時間の授業の中に、目的や意図を明確にしたペア・グループなどの対話の場の設定を行う。	〈家庭・地域の取組内容〉 ○家庭学習の習慣化 ○小中合同で先手あいさつ・無言掃除・無言移動の取組
	〈取組指標〉 ○発表や考えの交流ができない原因を探り、具体的な手立てを講じる。 ・考えに自信がない・・・じっくり考える時間の確保と学習意欲を高める工夫 ・発表や交流が苦手・・・発表のさせ方の工夫 ○安心して自分の考えを伝えられる雰囲気づくりに努める。 ○考えを発表したり伝えたりすることの楽しさや満足感を感じられるようにする。	〈家庭・地域の取組指標〉 ○学習の手引きをもとに、毎日、子どもへの宿題の声掛けをする。 ○先手あいさつの励行をする。
	〈検証指標〉 ○学校評価アンケート「自分の考えをノートに書くことができた」と回答する児童95%以上にする。 ○学校評価アンケート「自分の考えをすすんで発表(友達に伝える)している」と回答する児童83%以上にする。	〈家庭・地域の検証指標〉 ○「家庭学習時間の習慣がついている」と回答する保護者80%以上にする。
	【授業改善以外の学力向上の取組】	
	○学年ごとに、学期末の「学力向上アンケート」をもとに、児童の実態と課題を明確にし、次学期のめあてを決める。 ○必要に応じて、課後等に個別指導を行う。	